

JREL仙台 組織部情報

JR東労働組合仙台地方本部組織部

2020年5月8日

発行責任者 大越 和人
NO. 10

特集

新型コロナウイルス

夏季手当要求満額獲得に向けて・・

新型コロナウイルスの感染拡大でJR東日本の経営にも大きく影響が出ています。2019年度期末決算が発表され、タブレットで配信されている本社財務部の動画でも「減収減益」を全面に押し出しています。職場では「今度の夏季手当はどうなるのか」といった不安の声も日に日に増えています。**コロナだからしようがない**といったムードがつくれられていますが、では実際どのような状況なのか見ていきましょう。

JR東日本2019年度決算
営業収益 ▲522億円
当期純利益 1,590億円

コロナウイルスの恐怖とたたかいながら日々業務にあたっている社員の奮闘があるからこそ、厳しい中でも利益を出している！！

過去の夏季手当推移

リーマン・ショック時(2009年) 2.85ヶ月
東日本大震災発生時(2011年) 2.60ヶ月

震災の時も使わなかった
2兆円を超える内部留保金
不測の事態とは
今なのでは???

JR東海2020夏季手当
2.95ヶ月

ボーナスはその時々の業績に応じて考えるのが普通ですが、経営が好調だった時に会社は満額出したことがあったでしょうか？8期連続の増収増益で過去最高を更新して臨んだ**20春闘はペア平均684円、JR東海やJR西日本がペア平均800円**となっており、経営が好調なのに他社を下回る結果です。これはなぜなのでしょうか？春闘の3要素の一つ「会社との力関係(組織力)」が足りないからだと考えます。「会社の言うとおりに動いて、仕事を頑張れば会社は認めてくれる、出してくれる」これは幻想です。仕事をしっかりやることは大事です。でも祈るだけでは勝ち取れる物も勝ち取れません。

コロナウイルスという見えない相手には上手に対策(手洗い・うがい・アルコール消毒・マスク・換気・免役力UP)しながらたかわないといけませんが、会社は見える相手であり、生活を守るためにしっかりたかわなければいけません。何もしなければ悪化していく一方なのです。

コロナだから何でも自粛…ではなく、コロナで不安な中でも日々奮闘していることを声を大にしてぶつけていくことが必要です。

「命」と「生活」を守るためにたかおう！